

松川浦のアサリにおけるパーキンサス属原虫の感染状況

福島県水産試験場 相馬支場

1 部門名

水産業—その他—アサリ

2 担当者

佐藤 太津真

3 要旨

パーキンサス属原虫 (*perkinsus sp.*) は Apicomplexa 門に属する原虫で、二枚貝や巻き貝に寄生することが知られている。人体には影響はないとされているが、海外ではこの原虫等が原因となり、アワビ、カキ、ホタテ等の資源に大きな影響を及ぼした例が報告されている。

国内では 1998 年に熊本県と広島県のアサリにパーキンサス属原虫の寄生が報告され、翌年に北海道東部と太平洋北部を除いた全ての地点で本原虫の寄生を受けていることが公表された。

そこで本研究では、県内唯一のアサリの生産地である相馬市松川浦において、アサリのパーキンサス属原虫の感染状況について検査を行ったので報告する。

- (1) 検体は松川浦内の棚脇前、川口前、地島、揚汐、宇多川河口、沖ヶ島の 6 地点より各 4~6 個ずつ、合計 30 個体を採集した。平均殻長は 25.7 ± 13.0 mm、殻付き平均重量は 7.1 ± 9.5 g であった。
- (2) 感染率は 63% で、平均の感染強度 ($\log[(\text{cells/g})+1]$) は 1.4 であった。一部の地点を除き、殻長の大きい個体ほど感染強度が高い傾向がみられ、最も高い個体では 5.3 であった。しかし、陽性個体の感染密度のほとんどは 3 以下と低めであった。Waki & Yoshinaga (2013, Fish Sci) によると、感染強度が 6 以上でアサリの生存に影響が出るとされ、アサリのサイズが小さく (殻長 3~6mm)、水温が高いほど (23°C 以上) 影響を受けやすいとされている。
- (3) 今回の結果からは、パーキンサス属原虫による漁業への大きな影響はないと考えられるが、松川浦では 2012 年と 2013 年の夏に稚貝の大量減耗が発生していることから、今後はこれらの関連性について留意しておく必要があると考えられた。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 23 年度~27 年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成 8 年度~26 年度福島県水産試験場事業概要報告書
- (2) Waki, T. and T. Yoshinaga (2013): Experimental challenges of juvenile and adult Manila clams with the protozoan *Perkinsus olseni* at different temperatures. *Fisheries Science*, 79, 779-786.